

デジタルバッジを教育プログラムへ導入することにどんな効果があるか？ —デジタルバッジ・プログラム受講者の反応分析—

What is an effect of introducing a digital badge into an educational program?

-Response analysis of participants in a digital badge program-

天野 慧*1, 都竹茂樹*1, 鈴木克明*1, 平岡斉士*1

Kei AMANO, Shigeki TSUZUKU, Katsuaki SUZUKI, Naoshi HIRAOKA

熊本大学教授システム学研究センター*1

Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University*1,

<あらまし>デジタルバッジとは、外発的な動機づけを喚起させる単なるご褒美ではなく、学習目標の達成を証拠とともに示すことができる修了の証である。筆者らは、こうした着想をもとに、デジタルバッジを活用した大学公開講座の改善に取り組んできたが、デジタルバッジの教育プログラムへの導入に対し、受講者がどのように認知しているかについて未検証であった。そこで、本研究では、デジタルバッジを導入している大学公開講座の受講者を対象に、デジタルバッジをどう捉えたかについてアンケート調査を実施した。調査の結果、多くの受講者がデジタル・バッジプログラムについて肯定的な反応を示したことが確認できた。また、回答の理由を調べたところ、スキル習得の証明や意欲の維持・喚起の他、デジタルバッジ獲得に至るプロセスが有用であり、目標設定、教育改善への適用にも効果的であると受け止められていたことが示唆された。

<キーワード> デジタルバッジ, 大学公開講座, 究極の質問

1 はじめに

筆者らは、学習目標の達成を証拠とともに示すことができるデジタルバッジの活用に着目して、大学公開講座の改善(天野ら 2019 等)に取り組んできた。デジタルバッジを教育現場で活用することで、出口チェックを徹底させ、教育の質を保証できるという効果やスキル習得に対する意欲を維持・喚起する効果が期待できるが、デジタルバッジの教育プログラムへの導入を、受講者がどのように受け止めているかについては未検証であった。そこで、本研究では、デジタルバッジ・プログラムの受講者を対象にアンケート調査を行い、教育機関がデジタルバッジを導入によって得られる効果について考察する。

2 研究の方法

研究の対象は、熊本大学公開講座「インストラクショナルデザイン入門編 2018」(以下、ID 講座)であった。講座の対象者は、大学教職員や医療系職種従事者、企業内の人材育成担当者、専門学校教員等、何らかの教育という業務に従事する社会人であった。この講座では、対面ワークショップの後に、e ラーニングでの事後課題を課し、課題で合格基準を満たした者だけにデジタルバッジが発行された。講座では、デジタルバッジの取得はあくまで任意であり、受講者自身の判断に

委ねた。また、デジタルバッジには、修了に値する根拠として e ラーニング上で提出されたレポート等の学習成果物をリンク付けし、「誰が何をできるようになったのか」を参照できるようにした。

調査は、デジタルバッジ取得後に、講座で LMS として活用していた Moodle のアンケート・モジュールを利用して実施した。アンケートでは、教育プログラムの受講経験に関する反応を求める項目である「究極の質問」(Suzuki *et al.* 2009)を参考に、4つの設問を設けた。各設問では、「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」の3段階で回答を求め、それぞれに判断の理由を記述することを求めた。

3 結果と考察

アンケートは ID 講座入門編でデジタルバッジを取得した 148 名に配信した。回答を得たのは、45 名(回答率 30%)であった。それぞれの設問に対する回答結果を表 1 に示す。いずれの項目でも「はい」を選択した回答者が多く、肯定的な反応を確認できた。

また、各設問に関する回答の理由を第一筆者が分類してまとめた結果を表 2 に示す。スキル習得がきちんとなされた証明になることやモチベーションの向上に役立つという当初の期待通りの効果が得られたことを複数の設問のコメントから確認できた。その一方で、当

初の期待以外の効果も示された。たとえば、「これから受講する人にデジタルバッジの取得をすすめるか？」の設問の回答として挙げられているデジタルバッジ獲得のプロセスに言及したコメントである。このカテゴリのコメントからは、単体のバッジの効果ではなく、課題で合格をしなければいけないというバッジ獲得に至るまでのプロセスが受講者にとって有益だと解釈されたのだと思われる。また、「今後も熊本大学教授システム学研究センターが発行するバッジを獲得することを望むか」という項目では、さらなる学習機会への欲求や目標設定の目安となることに言及され、バッジの導入が何を目標に学びへ取り組みればよいかを示す効果があるということも示唆された。さらに、「われわれはデジタルバッジ・プログラムを継続すべきだと思うか？」の項目では、「曖昧でいい加減な教育を減らしていきたいから」「教育の質向上に寄与する」といったように、教育改善の普及に対する期待のコメントも寄せられた。教育に従事する受講者が対象であったため、デジタルバッジを教育現場で活用することによ

のような意義があるかを検討した結果として示された視点だと思われる。

4 まとめ

本研究では、スキル習得を証拠とともに示すことができるデジタルバッジを受講者がどう受け止めたか調査を行った。その結果、当初期待していたスキル習得の証明や意欲の維持・喚起の他にも、バッジ獲得に至るプロセスが有用であり、目標設定、教育改善への適用にも効果的であることが示唆された。今後は、過去の受講者にインタビュー調査等を実施して、デジタルバッジを導入することの効果をもさらに探していきたい。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 17K12948 の助成を受けた。

参考文献

- 天野慧, 都竹茂樹, 鈴木克明, 平岡齊士 (2019) 社会人向け教育プログラムにおける修了に対する動機づけを向上させるための個別フィードバックのデザイン. *日本教育工学会論文誌*. 41 (4), pp. 331-343.
- Suzuki, K., Nemoto, J., Oyamada, M., Miyazaki, M., & Shibata, Y. (2009) "Upgrading an online master's degree program based on Story-centered Curriculum(SCC): A case study", *Proceedings of ED-MEDIA2009*, pp. 591-598.

表1 「究極の質問」への回答 (N=45)

設問	はい	どちらとも言えない	いいえ
これから受講する人にデジタルバッジの取得をすすめるか?	41	4	0
デジタルバッジの取得を目指したことは、正しい判断だったと思うか?	42	3	0
今後も熊本大学教授システム学研究センターが発行するデジタルバッジを獲得することを望むか?	38	6	1
われわれはデジタルバッジ・プログラムを継続すべきだと思うか?	38	7	0

表2 回答の理由 (N=45)

設問	代表的なコメント
これから受講する人にデジタルバッジの取得をすすめるか?	<ul style="list-style-type: none"> ● スキル習得の証明: 参加賞より修了証が重要だから / 成果の証明になるから ● 振り返り・成果の定着: 学習が深まり自分のものになる / 自分の学びを振り返る機会になり、講師からのフィードバックも得られる ● モチベーションの向上: 自信につながる / 忙しいけど頑張った! という達成感を得られる ● デジタルバッジ獲得のプロセス: 事後課題までを含めて講座 / 事後課題で対面講座の内容がより定着するから
デジタルバッジの取得を目指したことは、正しい判断だったと思うか?	<ul style="list-style-type: none"> ● モチベーションの向上: 講座を受けるからには最後まで頑張りたい / 研修を最後まで受けるモチベーションになった ● 振り返り・成果の定着: 詳しい振り返りができるから / 振り返る機会になった ● スキル習得の証明: 形として残る / 一定の水準を満たした証だから
今後も熊本大学教授システム学研究センターが発行するデジタルバッジを獲得することを望むか?	<ul style="list-style-type: none"> ● さらなる学習機会への欲求: 自分の学びをアップデートできるから / 応用編の受講と大学院への進学を考えているから ● スキル習得の証明: 学習歴の証明にしたい / 自己学習の足跡として ● 目標設定: 目指すところがシンプルになる / 一つの自分の目標・成果になる
われわれはデジタルバッジ・プログラムを継続すべきだと思うか?	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育改善の普及: 曖昧でいい加減な教育を減らしていきたい / 教育の質向上に寄与する ● モチベーション: 動機づけの手段として優れている / バッジ獲得はやる気につながる ● コミュニティ形成: バッジホルダー同士のコミュニティ形成に役立つ / 多くの学びを共有できる